

瞳孔サイズと屈折異常に関する研究のお知らせ

帝京大学医療技術学部視能矯正学科では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2020年4月23日～2026年3月31日

〔研究課題〕

乱視度数による異なる瞳孔径での眼球収差の検討

〔研究目的〕

眼の屈折異常には、眼鏡で矯正できる近視・遠視・乱視（低次収差）と、眼鏡で矯正できない不正乱視（高次収差）があります。低次収差と高次収差を合わせて眼球収差といい、眼球全体・角膜・眼球内部でそれぞれ測定することが可能です。瞳孔サイズが大きくなると、眼球全体の高次収差は増加します。しかし、様々な瞳孔サイズにおける角膜や眼球内部の高次収差の変化については、あまり知られていません。そこで本研究では、瞳孔サイズによって眼球収差がどのように変化するかを検討します。

〔研究意義〕

本研究によって瞳孔サイズと屈折異常（眼球収差）の関係を明らかにすることで、視力検査の精度を上げることが可能となります。

〔対象・研究方法〕

対象：2019年度から2022年度に視能矯正学科2.3.4学年に在籍し、2015年4月～2023年3月に実施された学内実習に参加した学生。

研究方法：学生の実技向上を目的として屈折度数（近視・遠視・乱視）、視力値、眼球収差、瞳孔径、眼軸長を測定し、取得されたデータを使用いたします。測定は視能矯正学科実習室にて実施されました。

〔研究機関名〕

帝京大学医療技術学部視能矯正学科

〔個人情報の取り扱い〕

取り扱う情報は年齢・性別・検査結果のみとし、すべて匿名化で処理します。

対象となる学生・卒業生で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：講師 加藤 可奈子

研究分担者：松岡 久美子・藤代 尚文・中込 亮太・広田 雅和・三橋 俊文

所属：帝京大学医療技術学部視能矯正学科

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 45520]